

「不知火」を無毒化し、弱毒ウイルスM - 16 Aを接種した樹の特性

「不知火」を無毒化し、弱毒ウイルスM - 16 Aを接種した樹は、樹勢が強くなり樹冠の拡大が早く、収量が増大する。また、果実品質は酸が低くなり高品質果実が生産できる。

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室 (担当者: 榊 英雄)

#### 研究のねらい

「不知火」は、高品質果実が生産される反面、樹勢が弱く高酸果実が生産されるなど課題が多い。そのため、国が「不知火」からウイロイド・ウイルス類を無毒化し、弱毒ウイルスM-16Aを接種した樹(以下「M - 16 A」という)を作出し、本県においても露地栽培を中心に普及している。

そこで、本県における「M - 16 A」の特性及び適応性について検討する。

#### 研究の成果

1. 樹冠容積は、露地栽培では結果期に入った5年生頃から「M - 16 A」が「不知火」に比べ大きく、屋根掛け栽培では7年生頃から「M - 16 A」が大きい(図1)。
2. 初着果から5ヶ年の累計収量は、露地栽培では3年目頃から「M - 16 A」が「不知火」に比べ高く、屋根掛け栽培では、「M - 16 A」が2年目から高い傾向にある(図2)。
3. 果実品質では、糖度は「M - 16 A」が「不知火」に比べやや低い傾向はあるが、クエン酸も低く甘味比は高い(図3、図4)。

#### 普及上の留意点

1. 「M - 16 A」の高接ぎすると、中間台からウイロイド・ウイルスに感染する恐れがあるので、苗木による更新を主体とする。
2. 他の園で使用したハサミ等を消毒せずそのまま「M - 16 A」に使用すると、ウイロイド・ウイルスが伝染する恐れがあるので、ハサミの消毒等管理には十分注意する。

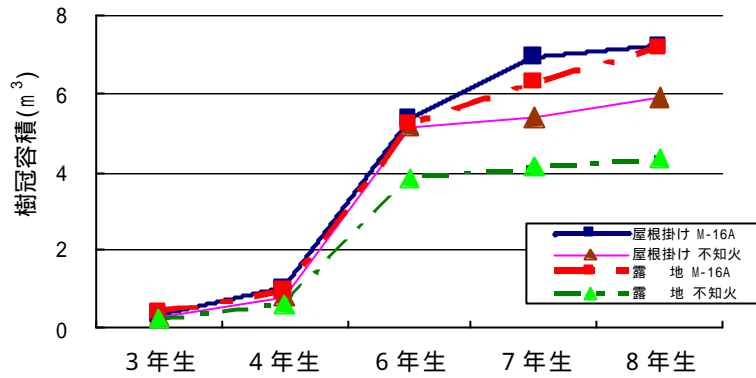


図1 樹冠容積の推移  
注) 1997年 1年生苗を定植

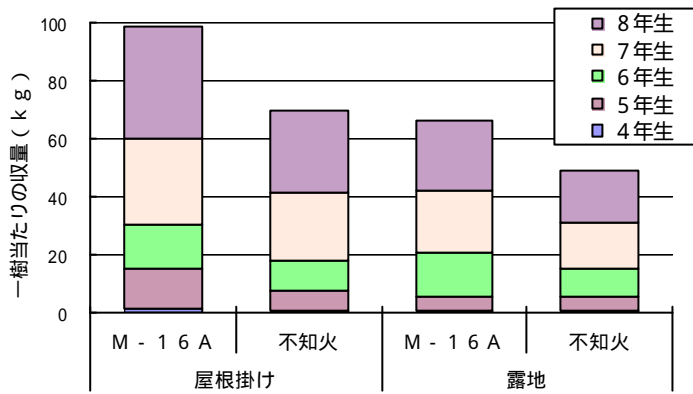


図2 収量の推移 (5ヶ年間累計)  
注1. 屋根掛けで有意水準1%以内  
2. 1997年 1年生苗定植

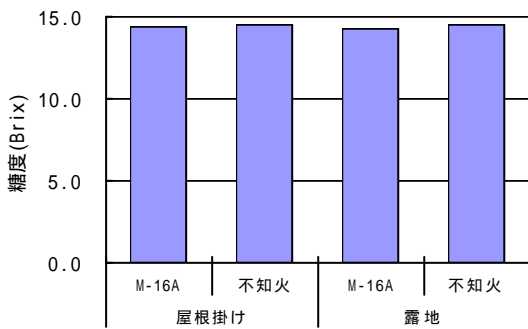


図3 果実品質の比較 (糖度)  
注) 1. 2001 ~ 2003年の平均値  
2. 1997年 1年生苗定植

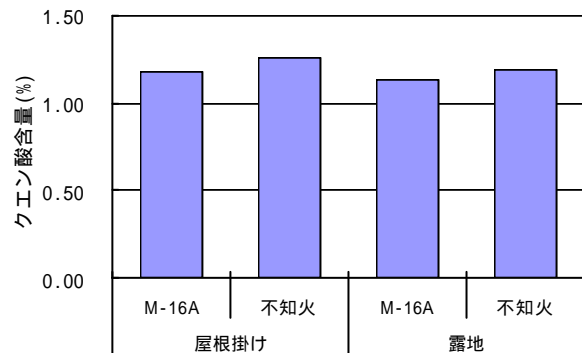


図4 果実品質の比較 (クエン酸)  
注) 1. 2001 ~ 2003年の平均値  
2. 屋根掛けで有意水準1%以内  
3. 1997年 1年生苗定植